

○鳥根県では、肉用牛肥育農場の成績が**枝肉重量・肉質ともに全国平均に達していない**状況であり、肥育農場の経営改善のため、肥育技術向上の取り組みを強化。

○枝肉重量の向上に意欲的な農場をモデルに、「**しまね和牛肥育の手引き**」を活用した、**飼料採食量向上の現地実証**を実施。また、令和4年10月に開催される**第12回全国和牛能力共進会肉牛の部の上位入賞に向けた出品対策**を通じて、肥育技術の向上を図った。

○**枝肉重量の県平均は、494kg(R1)から507kg(R4)に向上。第12回全共肉牛の部では、全ての出品区で上位入賞**を果たした。

### 具体的な成果

#### 1. 枝肉重量の向上

■現地実証活動を通じて対象農場では飼料採食量が向上し、目標とする発育、増体を達成。

■枝肉重量の県平均と全国平均の差は15kgから7kgに縮小。

#### 2. 第12回全国和牛能力共進会 肉牛の部 全ての出品区で上位入賞

■候補牛飼養農家に対する出品対策指導を実施し、候補牛は一次選抜時で目標体重を達成する候補牛が7割を超す順調な経過

■最終比較審査では、第6区は優等賞3席(肉牛1位)、第7区は優等賞2席、第8区は優等賞2席と全ての区で上位入賞を達成



第6区(総合評価群) 肉牛の部 出品牛枝肉

### 普及指導員の活動

#### 令和2年～

■関係機関が連携した指導体制を構築し、飼料採食量向上の現地実証を開始。

#### 令和3年～

■第12回全国和牛能力共進会の出品対策指導班として、出品候補牛の各種調査を行い、肥育状況をモニタリングし、飼養管理指導を実施。

■全共候補牛飼養農家が参集した技術検討会等にて、優良農家の技術を各農場の管理向上に活かすコーディネートを実施。



### 普及指導員だからできたこと

・関係機関の機能を活かした指導体制による伴走支援によって農場の着実な技術改善が図られた。

・優良農家の技術を各農場の管理向上に繋げるコーディネートにより、技術向上が図られる。

# 素牛の能力を活かす肥育技術の普及・実証

活動期間：令和2年度～（継続中）

## 1. 取組の背景

島根県内における肉用牛肥育農場の成績は、枝肉重量・肉質ともに全国平均に達していない状況にあり、肥育技術向上が必要とされています。

そこで、枝肉重量の向上を重点化し、意欲的な農場を対象として令和2年に作成した「しまね和牛肥育の手引き」（図1）を活用した飼料採食量向上の現地実証を実施しました。また、令和4年10月に開催される第12回全国和牛能力共進会肉牛の部の上位入賞に向けた出品対策を通じて、肥育技術の向上を図りました。

## 2. 活動内容

### (1) 飼料採食量向上の現地実証

令和2年から対象農場において、現地実証を実施しました。飼料給与体系は、肥育全期間を通して順調に採食させるため、①全肥育期間を通じた飽食給与、②肥育期に応じた飼料成分（濃厚飼料・粗飼料比率）の遵守、③採食量の低下に繋がる過度なビタミンA制限を行わないことをポイントとして設計を行いました。

実証経過は、飼料採食量・体重測定、血液プロファイルテストにて肥育状態を確認しながら飼養管理方法の点検を行い、関係機関（農協、家畜診療所、家畜保健衛生所、農業普及部、飼料会社）が連携し改善指導を行いました。令和4年には、肥育後期のビタミンA欠乏に因る採食量の低下に対応するため、飼料会社から新たにビタミン添加後期飼料が製品化され、給与を開始するなど、関係機関の機能連携を活かした実証活動を展開しています。

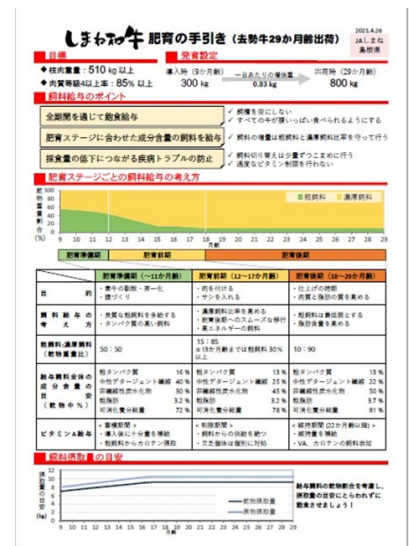


図1 しまね和牛肥育の手引き

### (2) 全共出品候補牛の管理改善指導

第12回全国和牛能力共進会肉牛の区の候補牛飼養農場に対する出品対策指導は、24か月齢時体重750kgを目標とした“全共候補牛の手引き”を作成し、肥育技術指導を実施しました。

全共候補牛の肥育状態は、2か月間隔の増体、栄養代謝プロファイルテスト、スキャナーによる肉質診断調査にてモニタリングを行い、調査結果に基づき飼料給与やビタミン補給などの飼養管理指導を行いました。

### (3) 優良農場の技術を各農場の管理向上へ活かすコーディネート

全共候補牛飼養農場を参集した技術検討会（写真1）では、全候補牛の肥育状態のデータを共有するほか、選抜時には、農場間で候補牛の生体確認を行うなど、農場間の交流を図り、互いの管理技術の向上を促しました。



写真1 技術検討会

### 3. 具体的な成果

#### (1) 枝肉重量の向上

現地実証農場では、肥育管理技術の改善により、肥育期間の飼料採食量が向上し、目標とする発育、増体によって、枝肉重量が10kg以上向上する農場も複数有り、着実な成績改善の傾向が見られています。(図2)

これらの取組の結果、県平均枝肉重量の成績は、令和元年度494kgであったものが、令和4年度507kgに向上し、全国平均との差は、令和元年度15kgから令和4年度7kgに縮まり、全国レベルに近づいています。

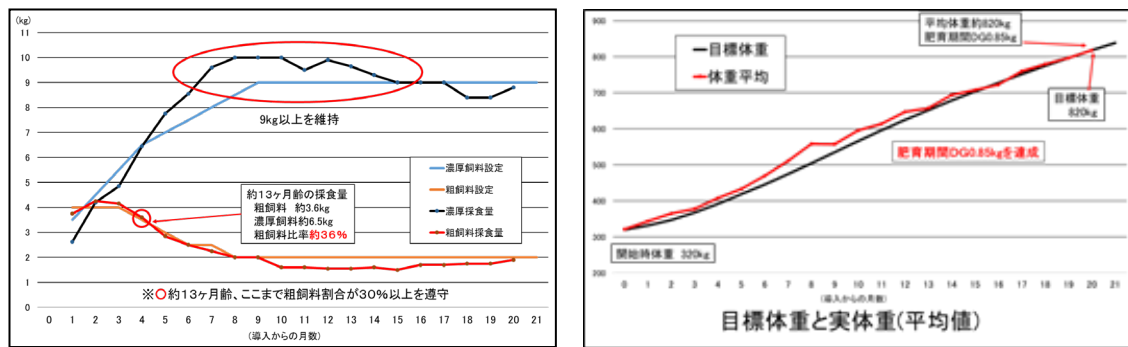


図2 肥育現地実証による飼料採食量と生体重の推移事例

#### (2) 全共 肉牛の部 全ての区で上位入賞

全共候補牛の肥育状態は、一次選抜時点で目標750kgをクリアする発育を示した候補牛が7割(45/63頭)を越す順調な経過となりました。

最終比較審査における本県代表牛の成績は、第6区(総合評価群)は優等賞3席(肉牛1位)(写真2)、第7区(脂肪の質評価群)は優等賞2席、第8区(去勢肥育牛)優等賞2席となり、全ての区で上位入賞を果たしました。



写真2 全共第6区 肉牛の部 出品牛枝肉

#### (3) 優良農家の技術を導入した管理改善

現地実証農場の一部では、全共出品対策の活動を通じて、自ら、優良農場の技術を取り入れた管理改善に着手する動きもあり、農場間の技術交流により更なる成績向上も期待されるところです。

### 4. 農家等からの評価・コメント(肥育農場I場長)

現地実証に取り組み、着実に成績が向上していることを体感しています。これからも管理改善に努め、目標とする全国レベルの成績達成を目指していきたいです。

### 5. 普及指導員のコメント

(農業技術センター技術普及部 専門農業普及員 遠藤治、畜産技術普及課長 藤田伸哉)

各肥育農場では、肥育管理技術の改善点の認識や成績向上に対する意識が着実に高まって来ており、今後の更なる成績向上が期待されます。今後も関係機関と連携した伴走支援を継続し、県内肥育農場のレベルアップを図って行きたいと考えています。

## 6. 現状・今後の展開等

本県では、枝肉重量の向上の取り組みにより、県平均と全国平均との差は縮まってきており、第12回全国和牛能力共進会では、目標とした上位入賞を果たすことができました。

次回全共での上位入賞を目標に掲げ、関係機関が一体となり、さらなる技術向上の取り組み強化を行うと共に、肥育経営の安定化と「しまね和牛」のブランド向上を図って行きます。